

平成 30 年 6 月 26 日現在

機関番号：18001

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K04567

研究課題名(和文) 特別支援教育成果評価尺度(SNEAT)の開発と授業成果評価モデルの構築

研究課題名(英文) Development of Scale to Special Needs Education Assessment Tool(SNEAT)

研究代表者

韓 昌完 (HAN, Changwan)

琉球大学・教育学部・教授

研究者番号：90599622

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：特別支援教育成果評価尺度(SNEAT)の標準化のために、2014年～2017年にかけて沖縄県(93件)、鹿児島県(28件)、栃木県(29件)、宮城県(55件)の特別支援学校においてデータ収集を行った。特別支援学校で行われる自立活動の授業を週1回(合計4回)、SNEATを使用して評価し、それらの縦断データを用いて信頼性の検証(Cronbach's 係数の算出)と構成概念妥当性(潜在成長曲線モデル)を検証した。その結果、信頼性の値も潜在成長曲線モデルの適合度の値も範囲内となり、信頼性・妥当性が検証されSNEATの標準化を行うことができた。

研究成果の概要(英文)： This study aimed to verify the reliability and construct validity of SNEAT. SNEAT using 205 children collected in Okinawa (n=93), Kagoshima (n=28), Tochigi (n=29) and Miyagi Prefecture (n=55) between November 2014 and February 2017. The method was conducted in the same way in each prefecture. Survey data were collected in a longitudinal prospective cohort study. The class was conducted once a week (four times) for one month. The reliability of SNEAT was verified via the internal consistency method; the coefficient of Cronbach's were over 0.7. The validity of SNEAT was also verified via the latent growth curve model.

These results indicate that SNEAT has high reliability and construct validity. As for the factors affecting the SNEAT scores, four factors were clearly identified: the teacher's length of teaching special support classes, the teacher's possession of a special teaching certificate, the student's grade level, and the type of disability of the student.

研究分野：特別支援教育

キーワード：特別支援教育成果評価 授業評価 SNEAT 信頼性の検証 妥当性の検証 標準化

1. 研究開始当初の背景

教育成果の在り方が課題となっている中で、特に特別支援教育の教育成果は、学力をアウトカム指標として用いるのは困難な点が多く、教育の目標達成等をアウトカム指標として用いてきた。しかし、教育成果評価に関するほとんどの研究は、評価の現状と課題に関する文献研究や評価方法に関する実践事例の研究にとどまっており、教育成果評価を測定するための尺度開発や教育成果評価モデルの構築は行われていない。そこで、健康上の問題を抱えている障害児の QOL 向上の視点から授業評価を行う教育成果評価尺度の開発が必要であると考えた。

2. 研究の目的

QOL を取り入れた特別支援教育成果評価尺度 (Special Needs Education Assessment Tool; 以下 SNEAT とする) の開発 (信頼性・妥当性の検証) し、標準化する。

3. 研究の方法

授業担当教員が授業後に SNEAT を使用した評価を週 1 回 (×4 回) 行い、縦断データ収集をした。データ収集は、2014 年～2017 年にかけて、沖縄県、鹿児島県、栃木県、宮城県の特設支援学校を対象とする。

データ収集後は、各県のデータ及び全データを使用して信頼性・妥当性の検証を行い、全国標準化する。信頼性の検証は、クロンバック係数を用い、SNEAT に含まれる項目の内的整合性を検証する。妥当性の検証は、構造方程式モデリングの中でも縦断データを扱う潜在成長曲線モデルを使用し、SNEAT の構成概念妥当性を検証する。統計処理ソフトは SPSS 及び Amos を使用する。

4. 研究成果

(1) SNEAT の構造とデータ収集の結果

SNEAT は 3 領域 (体の健康、心の健康、社会生活機能) 11 項目で構成されている。データ収集に関しては、沖縄県で 11 校 93 件、鹿児島県で 1 校 29 件、栃木県で 1 校 29 件、宮城県で 2 校 55 件、全 205 件のデータを収集した (欠損値を除く)。

(2) 沖縄県における信頼性・妥当性の検証

沖縄県では、信頼性は全項目が 0.901、体の健康が 0.472、心の健康が 0.854、社会生活機能が 0.824 だった。構成概念妥当性の検証を行った結果、障害種と特別支援教育経験年数を影響変数とした潜在成長曲線モデルでは $CFI=0.983$ 、 $RMSEA=0.062$ と適合度を示した。

(3) 鹿児島県における信頼性・妥当性の検証

鹿児島県では、信頼性は全項目が 0.89、体の健康が 0.78、心の健康が 0.78、社会生活機能が 0.80 だった。構成概念妥当性の検証

を行った結果、障害種と通算教職経験年数を影響変数とした潜在成長曲線モデルでは $CFI=0.992$ 、 $TLI=0.990$ 、 $RMSEA=0.042$ と適合度を示した。

(4) 栃木県における信頼性・妥当性の検証

栃木県では、信頼性は全項目が 0.74、体の健康が 0.65、心の健康が 0.63、社会生活機能が 0.67 だった。構成概念妥当性の検証を行った結果、障害種と特別支援教育経験年数を影響変数とした潜在成長曲線モデルでは $CFI=0.990$ 、 $TLI=0.984$ 、 $RMSEA=0.051$ と適合度を示した。

(5) 宮城県における信頼性・妥当性の検証

宮城県では、信頼性は全項目が 0.81、体の健康が 0.72、心の健康が 0.77、社会生活機能が 0.75 だった。構成概念妥当性の検証を行った結果、障害種と特別支援教育経験年数を影響変数とした潜在成長曲線モデルでは $CFI=0.997$ 、 $TLI=0.996$ 、 $RMSEA=0.025$ と適合度を示した。

(6) 全国における信頼性・妥当性の検証

全国のデータで信頼性・構成概念妥当性の検証を行った結果、信頼性は全項目が 0.853、体の健康が 0.708、心の健康が 0.798、社会生活機能が 0.746 だった。構成概念妥当性の検証を行った結果、潜在成長曲線モデルでは基本モデルにおいて、 $CFI=0.990$ 、 $TLI=0.988$ 、 $RMSEA=0.081$ と適合度を示した (図 1)。また、「障害種」、「特別支援教育平均経験年数」、「学年」、「免許保有の有無」の 4 つの影響変数を入れたモデルの適合度は、 $CFI=0.975$ 、 $TLI=0.959$ 、 $RMSEA=0.062$ だった (図 2)。

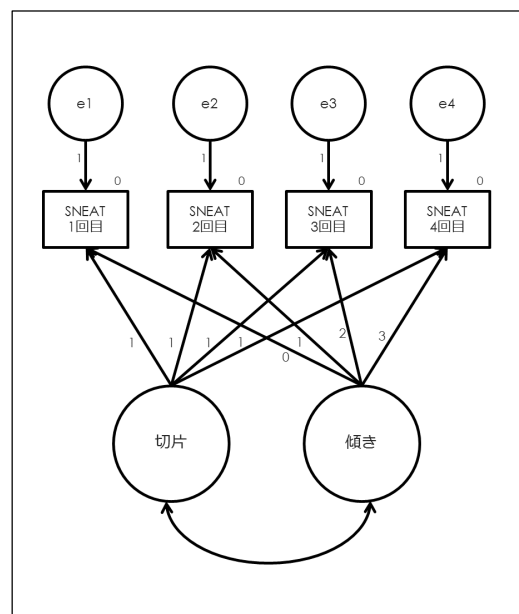


図 1 SNEAT の潜在成長曲線モデル (基本モデル)

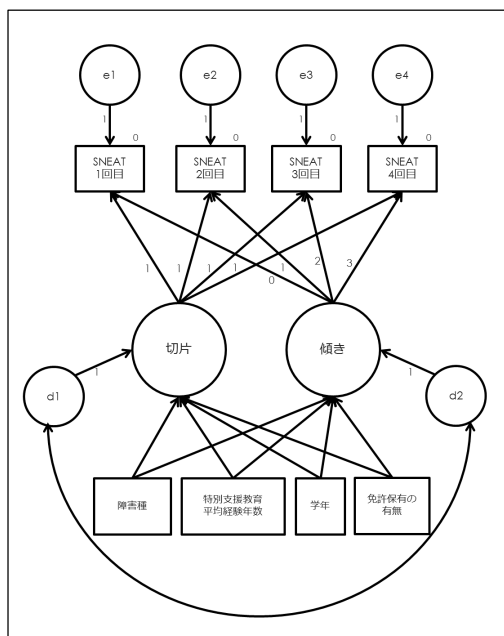


図 2 SNEAT の潜在成長曲線モデル (影響変数モデル)

以上のことより、本研究課題による成果として、日本各地において SNEAT の信頼性・妥当性が検証され SNEAT の全国標準化が行われたといえる。また、特別支援教育の成果を評価に影響を与える要因として、「障害種」、「特別支援教育平均経験年数」、「学年」、「免許保有の有無」があることが明らかになった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 4 件)

金へナ、小原愛子、角谷麗美、韓昌完(責任著者)、特別支援教育成果評価尺度 (Special Needs Education Assessment Tool, SNEAT) の全国標準化のための信頼性・妥当性の検証 - 栃木県の結果を中心に - , Journal of Inclusive Education, 査読有, Vol.3, 2017, pp.50-56.

DOI:

doi.org/10.20744/inclleedu.3.0_50

Changwan HAN & Aiko KOHARA, The Verification of Reliability and Validity of the SNEAT Based on the Data from Kagoshima Prefecture A Study on the Standardization of the SNEAT, Asian Journal of Human Services, 査読有, Vol.11, 2017, pp.124-132. DOI: 10.14391/ajhs.11.124

Changwan HAN, Aiko KOHARA & Masahiro KOHZUKI, A Study on the

Standardization of the SNEAT: The Verification of Reliability and Validity of the SNEAT Based on the Data from Miyagi Prefecture, Asian Journal of Human Services, 査読有, Vol.10, 2016, pp.93-102.

DOI:

http://doi.org/10.14391/ajhs.10.93

Kohara A, Han C, Kwon H & Kohzuki M, Validity of the Special Needs Education Assessment Tool (SNEAT), a Newly Developed Scale for Children with Disabilities. The Tohoku Journal of Experimental Medicine, 査読有, Vol.237, No.3, 2015, pp.241-8.

DOI: 10.1620/tjem.237.241. (Impact Factor: 1.278)

〔学会発表〕(計 4 件)

Changwan HAN, Aiko KOHARA & Masahiro KOHZUKI, Standardization of Special Needs Assessment Tool (SNEAT). 3rd Asian Research Conference of Human Services Innovation(国際学会), 2018.

Chang-Wan Han & Aiko Kohara, A Study on the Standardization of the SNEAT Based on the from Okinawa, Kagoshima and Miyagi Prefecture. ICCC 2016 International Conference on Convergence Content(国際学会), 2016.

Changwan HAN & Aiko KOHARA, The Verification of the Reliability and Validity of Special Needs Education Assessment Tool(SNEAT) in Miyagi, japan. International Conference on Convergence Content 2016(国際学会), 2016.

Changwan HAN & Aiko KOHARA, Haena KIM, Chisato NUMADATE, Kako IGUCHI, The Verification of Reliability and Validity of the SNEAT Based on the Data from Kagoshima Prefecture: A Study on the Standardization of the SNEAT. 2016 Asian Society of Human Services Congress in Fukuoka(国際学会), 2016.

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称:

発明者:

権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

韓 昌完 (HAN, Changwan)
琉球大学・教育学部・教授
研究者番号：90599622

(2) 研究分担者

上月 正博 (KOHZUKI, Masahiro)
東北大学・大学院医学系研究科・教授
研究者番号：70234698

(3) 連携研究者

(4) 研究協力者

小原 愛子 (KOHARA, Aiko)
矢野 夏樹 (YANO, Natsuki)